

おひさま新聞

NO.18 2025.10.28

自然との関わり、生命尊重
思考力の芽生え 編

秋の自然の中で、沢山の虫を捕まえることに夢中な子どもたちです。沢山の自然の不思議さを身の周りの生き物を観察しながら感じている子どもたち。今回は中学校の理科の教師をされていた末広先生(愛称 すえ T)に来ていただきました。子どもたちの不思議に思う事に答えてもらったり、新たな不思議に気づいたりする機会となりました。

子ども達が「なんで？」と思った時に図鑑や iPad など調べのですが、その疑問自体が「科学の芽」ですよね。それを大切にしたいので3歳児はすえ T に「なんで〇〇なのか？」という質問コーナーを作って、様々な疑問に答えてもらいました。5歳児は日頃食べているぶどうの皮を使って、色がなぜ変化するのか？の実験をさせてもらいました。それぞれの学年の取り組みを紹介しますね。

～3歳児 りんご組 質問コーナー～



『しょうりょうバッタ』

10メートル位跳びます。バッタが子どもたち位の大きさだったら、りんご組から小学校のプール位まで跳べる力があるそうです。
兎「ばったはオス、メスどちらが大きいと思う？」

「男の子！」と子どもたち。

正解：メスの方が大きいですが、遠くまで跳べるのはオスだそうです。

『天気』・・・当番で今日の天気をみんなに知らせる役割があるので、興味津々でした！

兎「雲は水とか氷とかできています。最初は雲は小さいけれど、ぶつかってくっついたりして、段々大きくなっていく。雲が大きくなりすぎると、雨が降ってくるよ。」



『なぜ夜は暗いのか？』

兎板の上ののった人形にライトを照らしながら教えてくれました。

「明るい時は、太陽がみんなを照らしてくれているけれど、太陽が下に行くと、暗くなるんだよ。でも地球は丸いから、反対側のブラジルとかの人は明るくなっているんだけどね。夜は太陽がみんなの见えないところにあるから、暗いんだよ。」



りんご組は他にカマキリの事、てんとう虫の事、かぼちゃの花の事など、色々と質問していました。一つひとつの質問に丁寧に答えてくださり、質問の時間が終わって戸外に出ても、ばったやてんとう虫を探して実験してみようとしている子どもたちでしたよ。きっと子どもたちは学ぶ事の楽しさを感じたと思います。

～5歳児 すみれ組 ぶどうの皮を使った不思議実験～



すみれ組では、紫色のぶどうの皮を使って実験をさせてもらいました。

- ① 初めにビニールに少しの水と乾燥させたぶどうの皮を入れて揉む
- ② 色水ができたなら、卵パックに気を付けて移す(4か所)
- ③ 一つ目の色水にスタヂを絞る
- ④ 二つ目の色水に重曹を入れて混ぜる
- ⑤ 三つ目の色水に酢を入れる
- ⑥ 初めの色水と色の違いを確認する
- ⑦ スタヂを入れた色水に重曹を入れた色水を入れる



初めに、今日は紫色のぶどうの皮を使う事、他にも同じような色の物はないかについて考えました。例えばサツマイモの皮、紫玉ねぎの皮の話を知ると「あっ同じ色のキャベツもある！」と意見が出ました。どの工程も変化が面白くて、「うわぁ！」「色が変わった！」「泡が出てきた！」と大興奮の子どもたちでしたよ。最後に、どうして色が変わったのかという説明では、『アントシアニン』という成分が含まれているから色が変わるんだという話を聞きました。子どもたちには少し難しかったですが、いくつもの不思議を経験して、「なんでだろう？」「どうしてだろう？」「もっと知りたいな」が学びの根となり、この気持ちを大切にいろんな体験を重ねられるようにしていきたいです。

どの工程も注意しないといけない事がいくつかあったのですが、卵パックから全部色水がこぼれてしまうなんて事もなく、気を付けて取り組む姿が見られました。初めと終わりには1年生になった気分です立って挨拶をし、得意気な子どもたちでしたよ。